

## まいばら協働事業提案制度

### 平成 27 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	未来へつなぐ古民家活用サポーターズ
1	事業名	柏原地区古民家活用サポート事業
意見交換		
<p>委員：古民家新聞みていると土日にはアイデアいっぱい事業をされているが、平日はどうしているのか？稼働率を考えると平日がもったいない。代表が平日に動きにくいなら場所を使っていくことを考えて、スポットでも平日動ける人に使ってもらえるような仕組み、例えば寺子屋的なことなど鍵を渡して使ってもらおう等工夫するのはどうか。</p> <p>団体：自治振興課にも配布協力ももらっているが発行物に時間をとられている。平日は今ではできていない。将来は考えている。</p> <p>委員：民泊の受け入れは？</p> <p>団体：6人まで。3部屋ある。小中学生は何かあった際に逃げられるように2階を使用しない形をとっている。</p> <p>委員：柏原には空き家が多い。活用する考えはあるか？観光的な事業を広めていく思いはないか？</p> <p>団体：西の方で今実施しているが、東でも広げたいなあと思っているが、なかなか難しい。観光の広がりとしては宿場をつなげていきたい思いはある。</p> <p>委員：大変面白い企画。継続に向かってはお金を回るしくみと人が育つしくみが必要。人口は減り、高齢化率が上がっているのが地域課題。それをこの事業ではどう重ねていこうと思っているか。</p> <p>団体：当初の会員は脱退した。地元の浸透には地元の人が必要。人材は簡単には育たないので、繰り返しが重要か。楽しんでやっていると集まってくるとあきらめずに続ける。</p> <p>委員：地元の食材・資源を用いるのは米原活性のためには大事なこと。今後どうするか考えがあれば教えてもらいたい。</p> <p>団体：近江の特産品を出している。シカ肉も地域でとれたもの。できるだけ食材は地域から手に入れるようにしている。また、よもぎには力を入れている。休耕地でよもぎを植えたりしたい思いはある。今年は朝市を始めた。農業者の作らないといけなから作る量が余って捨ててしまうという困り感から始めた。元が余り野菜なので、格安での販売。即売り切れる。</p> <p><b>委員長講評</b>：コミュニティの交流場であり地元物産の開発の場、宿泊の場であったりと活動が多岐にわたり、素晴らしい。とりわけ宿泊の場として修学旅行生や海外留学生など宿泊のマネジメントをするだけで大変だと思われるので、組織を確立する必要があると思われる。宿泊者とのそのあとの交流が続くのが望ましい。米原・柏原の発信をその方たちがしてくれる。ネットワークをどう構築するかが重要。管理できない日は別の団体に貸すなどルールを作ってしてもらえるとすごい施設になっていくのではないかと思う。今後を楽しみにしている。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 27 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	はびろネット
2	事業名	東西東西プロジェクト
意見交換		
<p>委員：方言にこれだけの違いが出るのはすごい。歴史やことばの調査研究は故郷が好きにならしてもらったための戦略やツールとしてされていると思うが、他市在住の私が聞くと本当に面白い。この素晴らしい調査をどのように発信していこうかと思っておられるか。それがこの事業の発展につながる。</p> <p>団体：7/5 に米原関ヶ原で広域連携の会議があるので、そこに参加し、発表をすることになっている。行政は行政同士で広域連携を考えている。我々も住民同士での交流は始めている。ウェブサイトもあるが、十分な更新はできていない。3年実施して今ようやく芽が出ている段階と考えている。次に生かしていくことを考えないといけない。</p> <p>委員：いろいろなところでタネを蒔いている状況。古々屋との連携もできるだろう。市民目線でコミュニケーションが大事なので、どんどんタネを蒔いていただきたい。</p> <p>委員：米原は文化も食も言葉も交流する拠点の場所にあり、その特色が出ている。面白い。若い人たちが自分の地域ではなくよその地域に目が向いているのか。言葉というきっかけで自分の地域よさを改めて学び直せる機会になったらいい。また、レキジョなども増えているので、人を呼び込む手段や伊吹山をとりまく連携などにつながるとういのは。</p> <p>団体：伊吹山はいろいろな団体が活動しているが、我々はちょっと違った観点で関わられたらいいと思っている。地域の小中学校の地域連携本部に関わっているので、若い子たちの地域に対する思いを育てる役割を担いたいとも考えている。</p> <p>委員：SNSのスタンプに湖北弁のスタンプなどもあり、活用している。そういう展開があってもいいのではないか。</p> <p>団体：3年が終わった次の視点として考えていきたい点ではある。SNSはポピュラーなので、方言などを理解してもらうにはいいツールだと思っている。</p> <p>委員：知らない言葉も多く非常に面白い。地元からすると恥ずかしいと思ってしまう方言も東京等方言のない地域では可能性の広がるツールなので、ぜひ活用して欲しい。</p> <p>団体：方言調査は生まれてから外の地域で生活したことのない方や祖父母・親・児童の世代にわたった調査など精密な調査を行っている。東大研究室の方や関ヶ原町、OKB総研が関わって頂き、広く調査・分析が進んだ。ここまでの調査が本州で出来たのは初めてのことで学術論文として発表されるとのこと。我々も達成感が高い。</p> <p><b>委員長講評</b>：学術的にも貴重なので、論文等で残してもらえとのことによかったが、全国に消えゆく文化がたくさんある中、貴重な資料なので、後世に残していくのが大事。また新たな県境を超えた連携の見直しやつながりが生まれていくと思うので、行政が連携するきっかけを民間から生み出して欲しい。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 27 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	プロジェクトK
3	事業名	地域で子どもを育てる冒険遊び場
意見交換		
<p>委員：最近ゲームで遊ぶ子が増えている。自然災害があちこちで起きている中、滋賀でも起きる可能性はある。自然をよく知っていることが大事。遊びを通じて自然に親しまれるような環境で強い体と心を育ててほしい。活発に実施してほしいが、回数としてはどのくらいあるのか？</p> <p>団体：定期開催は 24 回。不定期あわせたら 30 回くらい実施した。火や危険な道具さえ使わなければ、大人の許可なく遊ぶことも必要で、山は存在するものなので、地元の子を中心に自由に山でも川でも好きに選んで遊んでいる様子が伺える。ただ、その環境をつくるには地域の理解が必要。</p> <p>委員：遊び方を教えているのか？</p> <p>団体：大人が実践すると興味のある子だけが寄ってくる。それを“指導”という形にすると子どもにとって面白いものではなくなってしまうが、大人がいることでもっと面白い遊び場になるように心がけている。</p> <p>委員：地域で子育てを支援する風土を作られているのがすごい。初年度は危険性なども心配したが、3 年の間に子どものもつ力が示されてある程度のルール設定の下で子どもにも責任を持たせて遊ばせる形ができている。事業の自立の形も見えつつ、施策化にもつながっていくという、協働事業提案制度の意義の現れた素晴らしい活動だと思われる。米原市だけでなく、他に広げ発表してもらいたい。</p> <p>団体：子どもの可能性を大人が見守ることの大切さを感じている。上から目線で教えるより、子どもの中に入っていきことで子どもが集まってくる。それを 3 年で感じた。</p> <p>委員：一過性のイベントではなく、定地定点で存在することで高校生になっても遊び場に戻ってきて子どもと一緒に遊ぶという良いサイクルになっている。</p> <p>委員：子どもたちが本当にいきいきしているのが分かった。何名くらいの参加があるのか。親が相談したり交流の場所として生かせるのではと提案時にあったが、その後どうなったか。</p> <p>団体：雨がひどく 0 人の時もあった。普段は 30 人くらい集まり、企画をすると 100 人くらい集う時もある。子どもが遊んでいる間、親同士の交流の中で互いに悩みを話したりしている姿も多く見えた。子育てに疲れてしまった親にとっての息抜きになっているといい。</p> <p><b>委員長講評</b>：素晴らしい活動。子ども同士でルールを作ったりもしており、こういった環境づくりが重要。もっとひろめてほしい。施策化もされていくとの話だが、行政が入ると枠組を作りがちなので、子どもの目線での取組を団体と共に考え、続けてほしい。</p>		

## まいばら協働事業提案制度

### 平成 27 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	ルッチまちづくりネット
4	事業名	米原まちづくりネットワークの構築
意見交換		
<p>委員：波及効果等成果はあったと思われる。唯一行政テーマ設定型なのだが、当初から行政と団体で共通のビジョンを持つことができていたか？</p> <p>団体：協働事業なので、助成金をもらって自分たちのやりたいことをやるのとは違うため、私たちにとっても行政にとっても利点のある形にしたいとは思っていた。</p> <p>委員：民（団体）が入ることで横串をさせたのは本当に大きな成果だと思う。人がまちにかかわるきっかけづくりはできたが、ネットワークにまでは至っていないと課題を把握されているので、それもいいことと思う。人材育成に寄与もされてきたが、その人材は具体的に市の課題解決に向けてどんな行動をされ、成長されたか。</p> <p>団体：自分自身もまちの見方が変わったし、同じように関わった人たち行政側も団体側もみんな意識が変わったのではと思っている。強いつながりはなくてもいいと思っている。ちょっと手伝ってと言えるつながりがたくさんある形がいいと思っている。少しでも増やせたとは思っている。</p> <p>委員：ボトムアップになっていくので、そんなつながりがたくさんできることが大事。あと、今年の報告会のプログラム作成のような専門性のある部分ではきちんと対価をもらわなくてはいけない。民間は協働で事業をするとついついサービスをしがちになってしまう。市民協働センター構想の話が出たが、センターの必要性が市民や団体からのムーブメントとして起こってから作る必要があると思うので、見極めてほしい。</p> <p>団体：センターについては我々と行政だけで考えてもいけないので、ワークショップ形式等をとってみんなの意見で判断すべきとは思っている。</p> <p>委員：ルッチまちづくり大学で学び、交流した人が米原の課題解決のために地に足をつけた活動をし、成果が出ているのかまだ私には見えていない。米原の 30 年先のために今何を課題解決すべきなのかを考えた時に政策推進課と生涯学習課の他に人の暮らしを支えるという視点として福祉分野を横串に加えてこないと 30 年先の地域を支えるという力にはなっていないのではないか。協働センターが地域・暮らしを支えるためにどんな事をするのか、活動する人だけの機能ではいけないのではないか。今後の展開を教えてほしい。</p> <p>団体：地域活動の様々な手法の中に福祉面もある。これまで福祉は行政の公のサービスだという認識が市民にあった。これからはやれることを持ち寄って市民も考えていく時代になっていると思う。協働センターはハードではなくソフト面を考えていけるようにしたい。</p> <p>委員：行政も福祉支援課がくらし支援課に変わった。暮らしを支えるにはいろんなところが連携していく必要があるので、そこに関わって頂けるとさらに面白くなっていくと思う。</p> <p><b>委員長講評</b>：人と人が集うネットワーク環境づくりをしてこられた活動の素晴らしさについても感動している。課題があった時にルッチまちづくりネットが問題提起すると人が集まって気楽に話あえる環境があるというのが重要。協働で総合計画ワークショップをされたというのがさらにすごい。今後、他の場面でも協働して話し合う場を作っていってほしい。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 27 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表	団体名	米原ファミリーアートフェスタプロジェクト
5	事業名	米原ファミリーアートフェスタ
意見交換		
<p>委員：地域と家族、子どもの育成を大切にされたい活動だったと思う。やってみて、自分たちのしたかった事はできたのか？プレゼン時にやりたいことへの熱意がかなりあったが、実際終わった後の評価に市と団体とでずれが見えた。連携に課題があったのかなと思える。今後も協働していくためにも団体は自分たちのやりたいことをできたのか、市は支える上でどこに気をつけて連携していくべきと考えているか聞かせてほしい。</p> <p>団体：自分たちのやりたい事はできたが、当初の予定からずれてしまった部分がある。自分たちだけの事業として実施したらお金の使い方を気にせず実施できるが、公的な立場の市の協働事業として補助金で実施するという認識でずれが生じたと思っている。</p> <p>担当課：絵画や華道などを一堂に会して実施したが、ひとつひとつの取組が子どもたちにとって良い経験になるものなので、一日で終わるのではなく、その取組をどう全体的に広げられるかを考え、模索した。</p> <p>委員：協働事業を実施する上で苦勞をされたことは伺い知れる。その苦勞はいいことだと思う。この制度として公民お互いの違いを話し合い、見極め、お互いの目標に向かっていくプロセスが大事。双方苦勞し、双方がいい学びの機会になったのではないかと。報告書には外部評価が書かれていなかったもので、参加者や実行委員メンバーからどんな意見があったか聞かせて頂きたい。</p> <p>団体：メンバーとしてはやり遂げた達成感が高かった。フェスタ自体が終わってから2年目の審査採択に至ってほしかったというのはメンバー共通の意見。運動系が苦手な子どもやその親にニーズが高かったし、米原地域でアート系の行事があるので、山東地域で今回してくれたことが良かったとの意見が聞けた。フェスタとしては終了したが、お茶やお花など個々には問い合わせがきたりと展開が広がっている。子どもたちをどう育成するか、方向性を同じに持っていくことが大事だと認識もした。</p> <p>委員：3世代、ファミリーの意義をもう少し整理できると良かったかなとも思う。ファミリーアートという観点は素晴らしいので。</p> <p><b>委員長講評</b>：ファミリーアートの意味が明確に出るといいのかなとは思う。受益者負担を考える必要もあるし、参加者の世代の統計や満足度を確認しながら修正されるといいのでは。また、協働事業という部分でみると、他の民間でされている教室との差別化が何なのかを考える必要があるのかなとも思う。伝統文化の尊重の点で米原市の伝統的文化を引き継ぐような事業をされてもいいのかなと思う。特色をどう出して協働事業としてする上での差別化を出していく必要がある。今後に期待する。</p>		

まいばら協働事業提案制度

平成 27 年度実施事業公開報告会 意見交換全部記録

発表 6	団体名	マイクリング・プロジェクト
	事業名	マイクリングマップの作成
意見交換		
<p>委員：マップ作りを超えて広がりもあり、すごい。設立してどのくらいか。</p> <p>団体：設立は1年だが、その前段に生涯学習スポーツ担当としての関わりがある。</p> <p>委員：団体の全てが協働事業になってしまっている。団体として日が浅い中で協働をスタートしているので、制度のあり方にも関わってくるが、協働事業というのと団体自身の事業の区別や整理ができていないと報告書を読んで思った。民間としてのアイデアや自由さを大事にしていかなければと思うので、マイクリングがどういうことを目指しながら組織化していこうと思っているのか聞きたい。</p> <p>団体：目的はマップを作って魅力をいろんな人に知って頂きたい。それをきっかけに自転車やスポーツの推進をしていきたいし、それを一つの米原のブランド化にしていきたい。そして自転車を楽しむ市民層を増やしたいと思っている。</p> <p>委員：方向が見えてきているのが分かった。この事業は本当にすごい事をされているし、頑張っていてほしい。そしてさらに協働事業も進めていながら市民団体として自立に向かっていくことを上手くやってほしい。</p> <p>委員：素敵なマップだと思う。米原の新しい魅力が見えた。例えばこんなところにお地蔵さんなど、車では見えない自転車だからこその気づきがマップの中にあってもいいのではないかと思う。若い方ばかりではなく、高齢の方にも自転車は人気と聞いているので、そういう世代にも幅広く関心を引けるといい。あと、募集時にはママ目線で掘り起こすという狙いがあった。とてもそのアイデアは素敵だと思った。女性視点や子どもと一緒にいっても安全で楽しいかがマップに入るとまさに米原の資源発掘になるのではと期待したので、2年目ではその辺を考えてほしい。米原の魅力に気付いて住みたいと思う人が増えるようになるといい。</p> <p>団体：目立った資源を盛り込みがちだが、自転車ならではのポイントを詰め込んだマップにしていきたいと思っている。ママ目線は取組が多くて実践できなかった。自転車は父親が連れ出すことも多いと思うので、パパ目線も考えたりもした。子育て大変な中でサイクリングは難しい面もあるので、ママにこだわらず女性目線として意見をもらっていく必要があると思っている。</p> <p><b>委員長講評</b>：いろいろな可能性を秘めた意見が今出ているので、これからが楽しみ。高齢者が気楽に出かけられるスポットやファミリーが楽しむようなポイントがあるマップとなると、スポーツととらえなくても生活や文化や観光的な場面と結びつけていくことで素晴らしい活動になるなど感じている。</p>		